

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	152 人	社会	151 人	数学	152 人
	理科	152 人	英語	152 人		

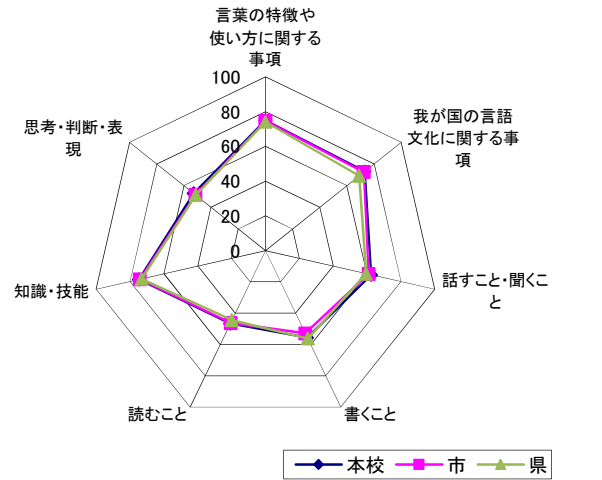
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	73.0	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	62.5	60.9	59.5
	書くこと	55.6	52.8	56.2
	読むこと	46.6	46.2	44.5
観点	知識・技能	74.6	74.2	73.1
	思考・判断・表現	52.8	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

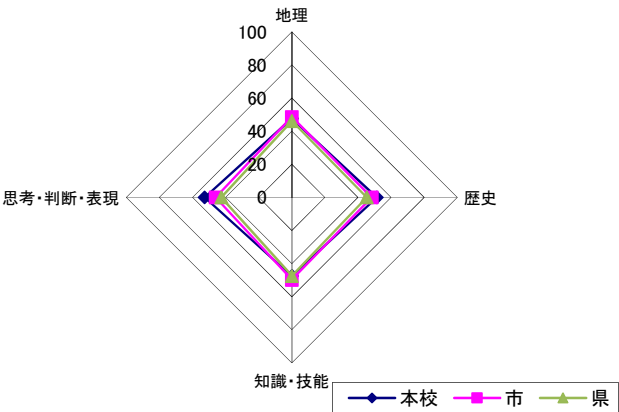
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	正答率は県を0.9ポイント、市を0.3ポイント上回った。 ○漢字の読みについては、県や市と同等、もしくは上回っている。 ●漢字の書きについては、県や市に比べ下回っている。また、文節の関係や敬語など、文法事項や、語句の使い方について落ち込みが見られる。	・漢字の読み書きについては、小テスト等を継続しながら強化していく。 ・敬語の働きについて復習し、理解を深めていく。 ・文節の関係については、復習して理解を深めていく。また、その他の文法事項についても適宜理解度を確認し、必要に応じて補充を行う。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は県を3.9ポイント、市を0.5ポイント上回った。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、県や市を上回っている。 ○漢字の行書に関する問題は、県や市と同等、もしくは上回っている。	・古典において、歴史的仮名遣いについての知識・技能にとどまらず、内容理解等の思考力・判断力・表現力について見極め、必要な補充を行う。 ・硬筆、毛筆についての基礎をしっかりと押さえて学習させる。
話すこと・聞くこと	正答率は県を3.0ポイント、市を1.6ポイント上回った。 ○音声聞きとって答える問題は、意欲的に取り組むことができ、無解答が少ない。正答率も高い。 ●話し手が話した内容を説明した文として、適するものを選ぶ問題では、正答率が県と市を下回った。	・聞き取りメモの取り方を提示し、必要に応じてメモを取りながら話を聞く演習を行わせる。 ・話し手が話した内容を要約したり、言い換えたりするような活動を取り入れていく。
書くこと	正答率は県を0.6ポイント下回り、市を2.8ポイント上回った。 ○二段落構成で書いて答える内容は普段の作文からの慣れもあるのか正答率が高い。 ●指定された文字数で答える問題が特に下回っている。	・授業内で作文の書き方、過去問を行い、定期テストでも作文を今後も続けていく。 ・字数制限の問題を解くことを授業でも続けていく。 ・問いと答えがあっているかを考える時間を設ける。
読むこと	正答率は県を2.1ポイント、市を0.4ポイント上回った。 ○比喩などの表現の効果についての問題は、正答率が高い。 ●文章の内容や登場人物の心情を読み取り、それを基に記述する問題の無解答率が高い。	・記述式の問題を解く機会を増やす。また、解き方や正しい解答のポイントなどを授業内で説明する。 ・接続する語句などに着目して読む習慣をつけさせる。また、文と文のつながりや内容のまとまりを意識して読めるように指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	47.7	48.6	46.2
	歴史	51.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	47.6	49.8	47.5
	思考・判断・表現	52.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

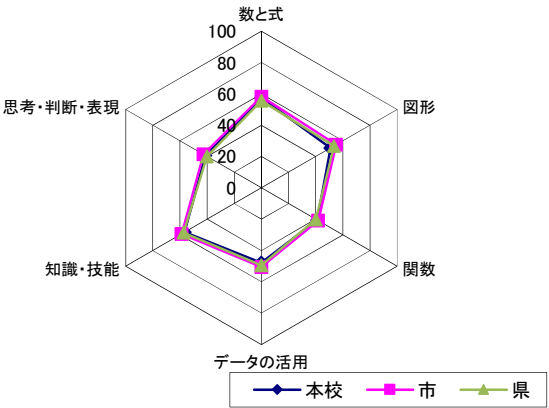
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は、県を1.5ポイント上回り、市を0.9ポイント下回った。 ○「世界の姿」で1.0ポイント、「世界の諸地域」で4.5ポイント県を上回った。 ○アフリカ州の資料の読み取りの記述する問題で、県を大きく上回った。 ○ブラジルの農業生産に関する記述の問題では、県を大きく上回った。 ●「日本の姿」は、0.9ポイント県の正答率を下回った。 ●「世界各地の人々の生活と環境」は、4.0ポイント県の正答率を下回った。	・資料を精選し、読み取りの際には分布や変化に注目させ、読み取りの視点を明示したうえで考察させる指導を継続する。 ・ICT機器や世界各地の人々の生活の動画を効果的に活用して、各地の生活に興味を高めさせる。 ・複数の資料から各地の生活の特色を読み取らせる指導を随時行う。 ・気付いたことを発表させる言語活動の展開を充実させる。
歴史	正答率は県を6.1ポイント、市を3.1ポイント上回った。 ○すべての単元において県の正答率を上回った。 ○「縄文時代～古墳時代」、「飛鳥時代～平安時代」の問題は、すべて県の正答率を上回った。 ○「鎌倉時代～室町時代」の問題は、ほぼ県の正答率を上回った。 ○複数の資料から理由を考え、記述する問題については、20.5%と大幅に上回った。 ●室町時代の社会の様子については、県の平均を大きく下回った。	・「古代までの日本」については、時代のまとまりをしっかり捉えて、時代を代表する人物や歴史的事象を通して、歴史の学習に関心を高められるよう指導を工夫する。 ・「中世の日本」については、古代までと比べると正答率が低くなる傾向にある。身近な中世の史跡や人物を図書資料やICT機器で分かりやすく紹介し、理解を深め関心を高める指導を工夫して行う。 ・より多くの資料をもとにした考察、表現の問題に対応できるようにするために、数多くの資料を活用し、資料活用の視点、解釈の仕方などを中心に正しく読み取れるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.4	58.2	55.5
	図形	50.9	55.1	53.5
	関数	41.1	41.9	40.2
	データの活用	47.8	50.5	49.4
観点	知識・技能	56.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	41.2	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

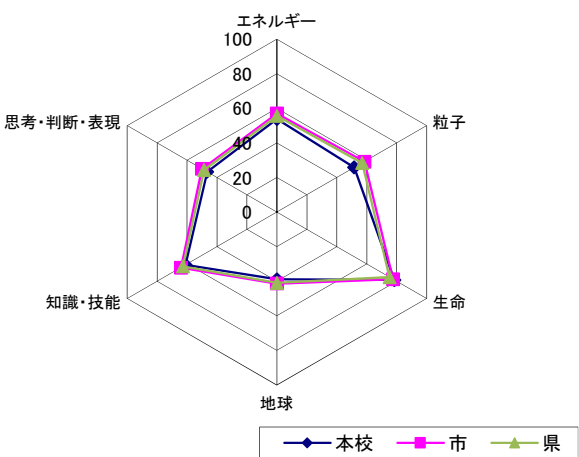
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市を0.8ポイント下回り、県を1.9ポイント上回った。 ○計算の工夫を理解しているか問う問題の正答率は、県を9.3ポイント上回った。 ●1次式の減法の問題では、県を11.9ポイント下回った。 ●解き方を間違えているものを選ぶ問題では、県を3.6ポイント下回った。	・基本的な計算をするために必要な知識・技能が定着するように、授業の最初に計算練習を入れる。 ・間違いを指摘し、数学的な表現を用いて説明できるようにするために、授業の中で起こりやすい間違いを取り上げる。間違えた理由と正しい解答を数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れる。
図形	正答率は、市を、4.2ポイント、県を2.6ポイント下回った。 ○回転移動の回転の中心を理解しているか問う問題の正答率は、県を6.8ポイント上回った。 ●垂線の性質を用いて作図する問題の正答率は、県を8.3ポイント下回った。 ●ねじれの位置についての理解を問う問題の正答率は、県を10.1ポイント下回った。	・図形に関する基本的な知識・技能が定着するように、図形の基本的な性質(特に、角の二等分線、垂直二等分線、垂線)の確認を行う。 ・ねじれの位置関係が理解できるように、具体物を用いた指導を行う。
関数	正答率は、市を0.8ポイント下回り、県を0.9ポイント上回った。 ●反比例の関係のx,yの値から式を選ぶ問題の正答率は、県を3.4ポイント下回った。 ●与えられた数値やグラフから、速さを求める問題の正答率は、県を6.2ポイント下回り、25.0%と低い水準だった。	・関数に関する基本的な知識・技能が定着するように、1次関数の授業の始めに、数と式(代入などの計算)等の確認を行う。 ・グラフと事象を結びつける思考力を養うために、現実的な場面をもとにした問題を扱い、数学科に焦点を当てた活動を取り入れる。
データの活用	正答率は、市を2.7ポイント、県を2.6ポイント下回った。 ●ヒストグラムの階級の幅についての理解を問う問題の正答率は、5.6ポイント下回り、26.3%と低い水準だった。	・ヒストグラムの山の形を見て特徴が読み取れるようにするために、ヒストグラムを読み取る活動を取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.8	57.0	55.7
	粒子	51.6	58.6	56.9
	生命	78.4	77.5	75.2
	地球	38.7	41.4	40.9
観点	知識・技能	61.0	64.1	62.8
	思考・判断・表現	46.6	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

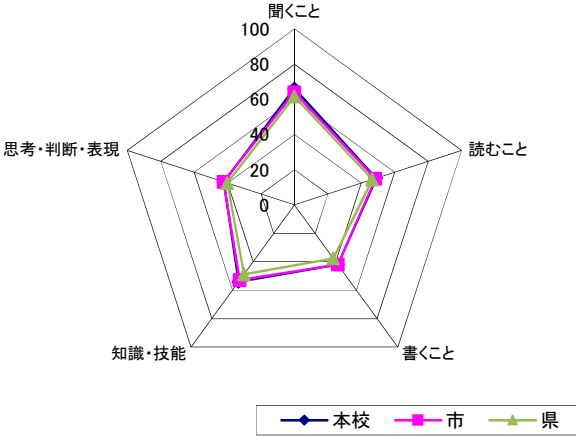
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は市を3.2ポイント、県を1.9ポイント下回った。 ○比例の名称を答える問題の正答率は市・県よりも高い。 ●実験の正しい考察を選ぶ問題では市よりもやや低く、県よりもやや高い。 ●音の速さを使って音源までの距離を求める問題では市・県よりも低い。 ●光の反射の道筋を考える問題では市・県よりも低い。	・比例の名称問題はフックの法則の結果から導く授業の成果と思われる。今後も継続して指導する。 ・実験結果から考察をする問題では、実験計画から考察をする習慣をつけさせるため、実験レポートの作成を行う。考察について、適切に助言をする。 ・音の速さから音源までの距離を求める計算について、基礎的なプリント学習などを重ね、計算して求めることに慣れさせる。 ・鏡と光の反射の道筋から正解を求める問題について、事情を図にして、理解する学習を多くし、筋道を考える練習をする。
粒子	正答率は市を7.0ポイント、県を5.3ポイント下回った。 ○気体の集め方について理解しているかを聞く問題の正答率は市・県よりも高い。 ●質量パーセント濃度や溶解度の変化を理解しているかを聞く問題の正答率が市・県よりも低い。 ●酸素の発生方法や酸素であることを確かめる問題の正答率は市・県よりも低い。	・気体の性質と収集方法の違い、気体の発生方法を複数ある気体の違いを比較、整理してまとめ、説明できるように指導する。 ・溶解度についての理解を実験を通し確認しながら、質量パーセント濃度の計算を繰り返し行い定着を図る。
生命	正答率は市を0.9ポイント、県を3.2ポイント上回った。 ○肉食動物と草食動物の頭部のつくりを比較する問題の正答率は市・県よりも高い。 ○根・子葉・葉のスケッチをもとに身近な植物を単子葉類と双子葉類に分類する問題の正答率は市・県よりも高い。 ●食べるものによる動物の分類をする問題では市・県平均よりも低い。	・生徒の関心が高い単元でもあり、意欲的に学習することができている。今後も分類に関する相違点を明確にさせるときには、表にまとめたり、図に示したり、視覚的に印象付けられるよう継続して指導する。
地球	正答率は市を2.7ポイント、県を2.2ポイント下回った。 ○地震のゆれや震度について答える問題の正答率は市・県よりも高い。 ●火山の形と火成岩の名称を組み合わせる問題では市・県平均よりも大きく下回った。 ●示相化石の名称を答える問題では市・県平均よりも低い。 ●堆積した時期が異なる地層を選ぶ問題では市・県平均よりも低い。	・火山の形、マグマの粘り気、鉱物の種類、岩石の種類などが、それぞれ関わっていることを理解できるように、複数ある具体物を図や表で視覚的に捉えさせ、レポートや自分の言葉で表現させる。 ・化石についての理解を深めるために、化石生物の生息環境を生命分野と関連付けるなどして関心を高める。 ・年度末に取り組む単元なので、復習が十分でないため、AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れるなど、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.2	64.0	61.6
	読むこと	48.9	48.4	46.6
	書くこと	42.0	42.0	37.8
観点	知識・技能	54.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	42.2	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、県を4.6ポイント、市を2.2ポイント上回った。 ○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、県や市と同等もしくは上回っている。 ○対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ問題では、3問中2問が県や市の正答率を上回っている。 ●英文の概要を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ問題では県を0.6ポイント、市を1.1ポイント下回った。	・英語による授業やALTとの対話活動、またリスニング教材等を活用し、イントネーションや音の連結などを学び、英文を聞き取る力をつけさせる。 ・まとまった英文を聞かせ、内容の要点を聞き取るような英問英答を取り入れる。 ・英語特有の表現や定型会話を十分に理解させ、それを活用する力を高めていく。
読むこと	正答率は、県を2.3ポイント、市を0.5ポイント上回った。 ○英文から必要な情報を読み取る問題では、いずれも市・県の平均を上回っている。 ●英文全体を通して、その内容から適切なタイトルを選ぶ問題では、市・県の平均を大きく下回っている。	・英文読解の素地となる単語や文法を身に付けさせる活動を取り入れる。 ・訳読法ではなく、推測したり、英文の内容をもとに自分の意見を述べたりする活動を通して、深く読み取る力を付けていく。
書くこと	正答率は、県を4.2ポイント上回り、市と同等であった。 ○空欄に当てはまるものを選ぶ問題では、4問全てが市・県の正答率を上回っている。 ●語を的確な形に直して書く問題では、市の平均を4.6ポイント下回っている。	・授業の中で既習事項の単語や文法を繰り返し復習できる場面を多く取り入れ、英作文の基本となる語彙や語形・語法の知識・理解を高める。 ・各単元ごとに、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れ、ある程度まとまりのある英文を書く練習を継続的にを行い、英語の表現に慣れ親ませるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(6)「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の項目において、自信をもって「はい」と回答した生徒が県、市町村に比べ肯定的な回答の高い。学校全体の取り組みである、自主学習ノートの提出率が大変高いことと連動しているかからだと考えられるが、この取り組みが結果として授業への意欲やテスト成果の向上に結び付くようにしていきたい。

○(16)(17)(18)の勉強への好奇心や探究力を尋ねる項目では、自信をもって「はい」と回答した生徒が県、市町村に比べ肯定的な回答の高い。一人一台端末の使用普及やITC教育による授業展開の工夫によるものと予想できるが、この結果として授業への意欲やテスト成果の向上に結び付くようにしていきたい。

○(38)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の項目では「はい」肯定的回答が県や市町村の割合よりも高い。各教科や特別活動における教師の取組の成果だと思われる結果で、今後も持続していきたい生徒との関係性である。

○(66)「家の人と学習について話をしている。」の質問では「はい」の回答が、県と市町村のポイントより10ポイント以上高い。家族のコミュニケーションが良好であることがうかがえる。今後、この結果を家庭に報告したり、教員が共通理解したりすることで生徒の意識や行動を継続、伸長させたい。

●(40)「学校の決まりを守っている。」のポイントが県、市町村に比べ「はい」でマイナス8ポイント前後低く、「どちらかといえば、はい」と合わせてれば肯定的な割合はほぼ同じになるが、今後、生徒会や学級活動での啓発活動を活発に活発にさせる取組を生徒とともに考えていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートへの取り組み	毎日、A4ノート1ページ分の家庭学習を行い、提出する。	・生徒質問(2)で、「学校の宿題をしている」の項目において、「はい」と回答した生徒が県に比べて3.5ポイント、市に比べて0.7ポイント高い。また、「家で予習をしている」「家で復習をしている」の質問についても、県市を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・質問(28)「授業の中で、「目標(めあて・ねらい)」が示されている」については、県市を上回っているが、(29)「授業の最後に、学習したことをふり返る活動を良く行っている。」については、県市を3～4ポイント下回った。	・ワークシートやノートの活用等で、授業の振り返りを行う。	・振り返りのワークシートや1人1台端末を利用し、短時間でその時間の振り返りができるようにする。また、その結果を次の学びへの課題や目標に結びつける。